

ワークショップ型演習「建築 & デザイン総合演習」による 神保町を舞台とした地域連携プロジェクト



© 2015 Mayu Yamakita

家政学部 建築・デザイン学科教員、3年次「建築&デザイン総合演習」履修学生
申請代表者：高橋大輔

1. 提案プロジェクトの目的・概要

建築・デザイン学科ではワークショップ型演習「建築&デザイン総合演習」を通して、様々な魅力を持つ地元・神保町が時代や世代を超えて人々に愛される「まち」でありつづけるための企画提案を、毎年学生たちが商店会をはじめとする地域住民に対して行ってきた。

その成果の中で実現した最も代表的なものが「じんぼうちょう」であろう。このキャラクターは今や本学だけでなく神保町にとっても欠かせないものとなっている。このように具体的な場所を演習課題の対象として、学生たちがリサーチし、ディスカッションしながら企画提案を行い、地元の方々にプレゼンテーションして、評価してもらうといった授業形態は、まさに課題解決型ワークショップのひとつの形であり、ルーブリックによる評価を採り入れていることから、本学の目指している教育プログラムに合致しているといえよう。

そこで、このプロジェクトはこれまでの実績を活かし、神保町が長い年月をかけて紡いできた地元の「まち」の文脈を学生たちが学びつつ、大規模なスケールの都市再開発ではなく、そこに生活する人々や環境を主体とした小さなまちづくり、これからの時代におけるサスティナブルなまちづくりの実現をめざし、「まちを元気にする」ための空間やそこで使用する家具やサインなどをトータルに計画・提案することで、神保町というまちが世代を超えた人々に愛され、次世代に受け継がれていくことを目的とするものである。



じんぼうちょうもトートバッグも神保町で大人気



地域の方々へのプレゼンテーション

2. プロジェクトの実施内容

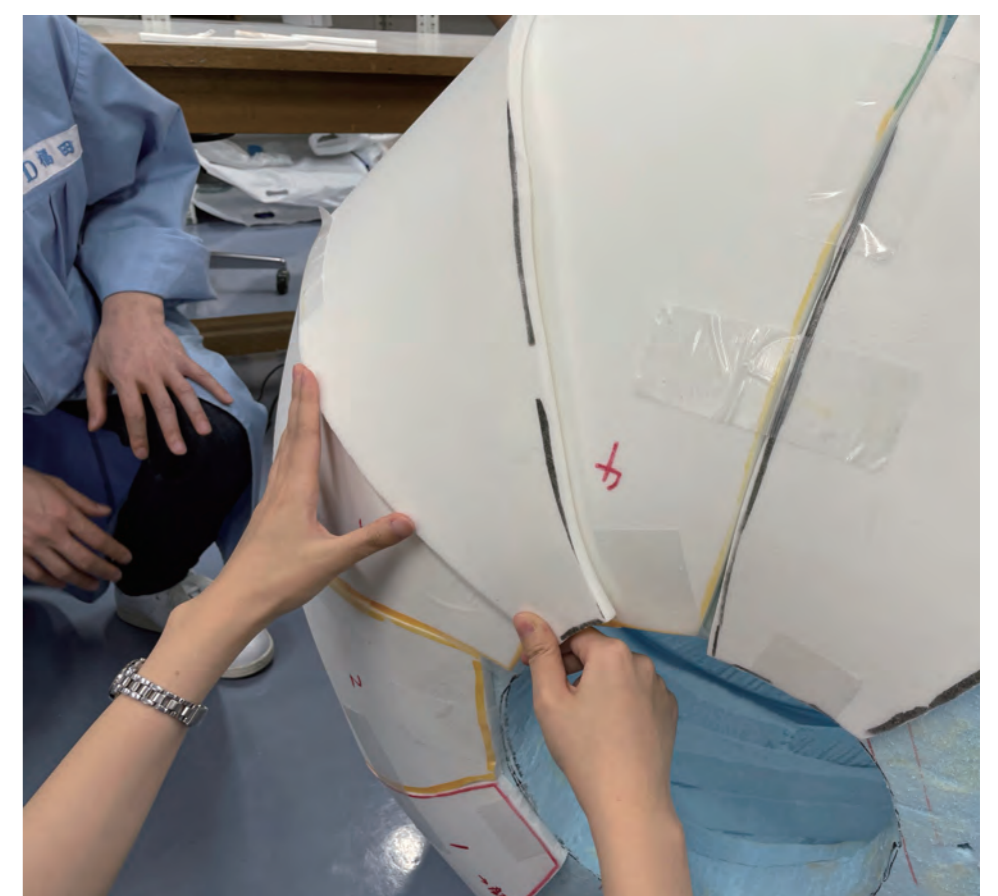
2020年度は以下の2つのプロジェクトを実施し、2月16日にオンラインで地域の方々をお招きして毎年開催している成果発表会を行った。

(1) じんぼうちょう着ぐるみ改修プロジェクト

例年であれば後期に共立祭も含めて、神保町活性化プロジェクトをリリースしていたが、2020年度はコロナ禍の影響が大きく、じんぼうちょうが参加するイベントがまったく無い状況であったため、次年度イベント参加を視野に入れ、傷み具合が進行していたじんぼうちょうの修復作業を行った。主な修復内容としては、頭部の軽量化や内部環境の向上、全体骨組の補強、衣装をリニューアルである。

(2) じんぼうちょうの住処（すみか）計画

さくら通りにじんぼうちょうと学生たちが、家をまちに開く「いえ開き」をするという前提のもとにさくら通りの敷地を用いて、1階がじんぼうちょうの活動場所（まちとの接点）、2階以上には神保町とじんぼうちょうを愛する人たち（学生）が住む空間を設計する課題であり、建築やプロダクト、グラフィックも含めた提案を行った。



じんぼうちょうの修復作業



タンブラーや金属しおり、コースターなど様々な提案を行った



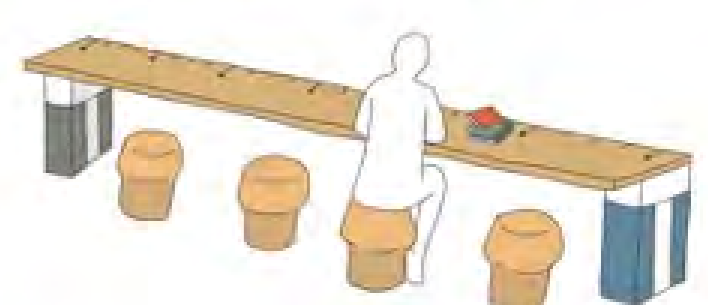
1F まちライブラリー

コンセプト：隠れ家
まちライブラリーとは…
メッセージをつけた本を持ち寄り、人と出会おうという活動のこと

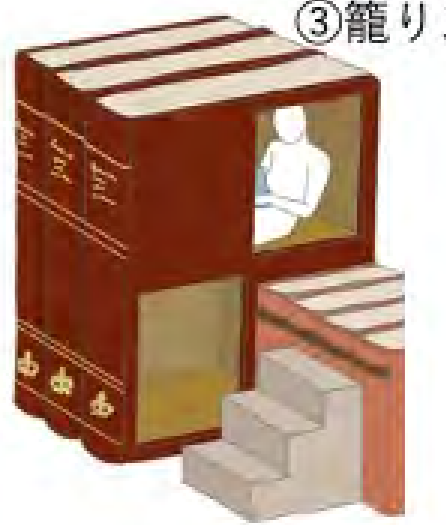
①本棚型ロフト



②定規風カウンター席



③籠りスペース



1階にまちライブラリーのある集合住宅の提案（一部抜粋）